

J Aまにわ自己改革取組宣言

これまでも、これからも、地域とともに
J Aまにわは総合事業を展開します



J Aまにわでは、農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化に努め、協同組合の原点に立ち、組合員の皆さんとの話し合いを深めます。そして「総合事業だからこそ」の強みを活かし、地域にとってなくてはならない組織であり続けます。

協同組合とは、組合員の一人ひとりが力をあわせ、みんなの願いをかなえていく組織です。

J Aは、農業者（正組合員）が組織する協同組合です。農業者の営農と生活を支えるため、様々な事業を総合的に展開しています。農業者の所得向上や地域農業の振興を目的に、農産物の販売や、信用事業（J Aバンク）、共済事業（J A共済）などの様々な事業を、営農相談やくらしの相談活動を通じて、総合的に結びつけ、地域農業の振興や地域づくりに取り組んでいます。

農業者以外の方でも、J A各事業をご利用して頂いている方を、J Aの応援団として准組合員として加入いただいております。

信用事業や共済事業などを含めた総合事業全体の収支のなかで実施しているからこそ、J Aの経営基盤が安定し、営農指導員の配置や多額の農業施設投資が可能です。

いわば、農業者と地域農業の応援団で、J Aの総合事業を通じて地域の農業とくらし、みんなの願いをかなえる取り組みを支えあっています。

総合事業体として「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向けたJ Aの主な取り組みを3点紹介します。

1. ブドウ生産量拡大への支援（産地パワーアップ事業：事業費7,100万円）
【品目名：ニューピオーネ、シャインマスカット、オーロラブラック／
目標額1億4,000万円】

ニューピオーネをはじめとする、次世代フルーツのシャインマスカット、オーロラブラックをJ Aまにわ全域へ広め、平成30年に稼働を始めた選果場を利用した一元集荷、販売を行います。また南北に長い管内の気候を利用し、ハウス栽培から準高冷地栽培まで長期にわたり出荷を行います。

2. ナス産地拡大への支援（自己資金：4,000万円）

【品目名：夏秋ナス／目標額9,200万円】

J Aまにわでは、平成30年度に始まった夏秋ナスの共同選果を基に、令和元年度には新しく多目的選果場を建設し、対応します。夏秋ナスの取扱は鮮度保持と選果機により、新鮮な状態を維持しつつ、袋詰め、箱詰めまでを行い、市場出荷を行います。冬期は白ネギも選果できる多目的施設となっています。

3. 白ネギ産地化、ブランド化へ（自己資金600万円）

【品目名：白ネギ／目標額9,000万円】

J Aまにわ南部白ネギ生産組合を中心に、白ネギの栽培を拡大させています。ここ数年で県下有数の産地となりました。令和元年度の栽培面積は約9㍏となり、収穫機の導入も計画し、計画的出荷と選果場の効率運営を目指し、J Aまにわの新規品目として重点推進を進めています。

なお、当JAの営農指導事業の主な取り組みは次の通りです。

- ① 売れる米作り、里海米の更なる推進
- ② ダイコン、銀沫、ソリダゴなど地域振興品目の生産振興
- ③ ミニパブリカ、菌床などの新規作物の導入
- ④ J A農産物直売所「きらめきの里」を通じた農産物の生産振興
- ⑤ 担い手、新規就農者への対応 など